

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-150	高等学校	外 国 語	コミュニケーション英語I	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
15 三省堂	コI333	CROWN English Communication I New Edition		

## 1. 編修の趣旨および留意点

本書は、英語教育を通して、次の3点を教育理念として掲げ、それを具現化するために編集されたものである。

### 1. 「ことばの教育」に資する

コミュニケーションのためのことばの知識・技能の習得に加えて、ことばに対する興味・関心を高め、考える力・思考力・表現力を伸ばし、豊かな言語観を育成する。

### 2. 「国際理解教育」に資する

ますます複雑化する国際社会の中で、比較文化の視点に立ち、世界のさまざまな言語や民族に対して目を向けさせ、人類としての共通性だけではなく地域や民族の個性も同時に尊重し合う、豊かな文化観と真の国際理解の基礎を養う。

### 3. 「人間教育」に資する

今日のグローバル社会に生きる子どもたちに、英語を学びながら、人間としての生き方やものの見方、考え方、ならびに世界観に目を向けさせ、社会の中で自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。

## 2. 編修の基本方針

英語教育は、学校教育の一環としての人間形成の教育であり、ことばの教育を教科独自の課題とし、国際理解教育に対してはとりわけ大きな役割を担っている。この認識に基づき、特に次の5点を編集の基本方針とする。

- ことばと人間との関係やことばと社会との関係など広くことばへの関心を高め、豊かな言語観を育てる。
- ことば、文化、民族の多様性とその共存を国際理解の基本理念とし、国際感覚と国際協調の精神の育成を図る。
- 言語能力の本質としての思考力の養成を土台として、英語の基礎的な知識や技能の習得、コミュニケーション能力の養成を図る。
- 実際のコミュニケーションにおけるメッセージの役割を重視し、生徒の興味・関心を喚起する題材内容を提示すると共に、「言語の使用場面」と「言語の働き」に留意しながら、創造的な言語活動を目指す。
- 中学校における学習で習得した基礎的な能力をさらに伸ばさせながら、4技能における言語活動の総合的かつ統一的な関連を図る。

### 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
題材	①各課でとりあげた題材は、幅広く高校生の知的興味・関心を高めるものを選択し、「生きる力」を育成するに資するテーマを配置した。(第1号)	Lesson Optional Reading Optional Lesson
	②読み物教材においては、高校生の感性に訴える作品を配置した。(第1号)	Reading 1, 2
	③個人の能力や創造性を伸ばし、個性を発揮する中で、それらを将来の生活や職業に結びつけることができるような題材の課を設けた。(第2号)	Lesson 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10
	④正義および自他の敬愛と協力など、社会への主体的な参画を扱った課を設けた。(第3号)	Lesson 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10
	⑤自然科学、環境を扱った課を特に設けた。(第4号)	Lesson 2, 6
	⑥日本の伝統文化および他国の文化を扱った課を設けた。(第5号)	Lesson 1, 3, 10
	⑦平和を扱った課を設けた。(第5号)	Lesson 8
言語活動	①本課および各課末の言語活動においては、将来の職業の選択、環境問題、社会貢献、平和の問題など、自分の考えをまとめて発信できるような題材を扱った。(第2号)	Lesson Your Reaction
	②各課末の言語活動は、その活動に取り組む生徒の個性が発揮されるように配慮した。(第2号)	Your Reaction
登場人物	①題材における人物の配置および活動においては、男女の偏りがないように配慮した。(第3号)	全課にわたる登場人物およびその活動
構成	①教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイントなどが、生徒たちにわかりやすく提示され、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるように配慮した。(第2号)	本課の各構成 Reading Skill Sound Studio Optional Reading

### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 日本の文化については、理解するとともに発信していく態度を養えるように、題材、活動の面で配慮した。
- 外国の文化については、英語を母語とする地域のみならず、国際理解の観点から他の地域の文化についても扱った。
- 家族と家庭の役割、生活に必要な食、住環境を扱った課を特に設けた。
- 人間としての豊かな心や人間のもっている微細な感情を意識し、そしてまた、幅広い観点からものごとを考えることができるような習慣形成に資する読み物を配置した。
- 環境にやさしい教科書づくりを心がけた。用紙については、環境の保護、資源の節約のため、原料や製法に配慮した、環境にやさしい紙を使用した。インキについては、植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用した。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-150	高等学校	外 国 語	コミュニケーション英語Ⅰ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
15 三省堂	コ1333	CROWN English Communication I New Edition		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の総則に示された教育の方針や高等学校外国語科の教科目標「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」、および本書の教育理念に基づき、教科書の構成・配列と各領域などの系統・内容に関して以下のことに特に意を用いた。

### (1)基本方針

- ①多様化している生徒の実態を考慮し、質量ともに充実を図る。
- ②中学校の外国語科(英語)の内容を踏まえて、中・高の接続が円滑に図られるように配慮する。
- ③4技能のバランスを重視し、総合的・統一的に英語でのコミュニケーション能力が育成できるように構成、内容を工夫する。
- ④教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイントなどが、生徒たちにわかりやすく提示され、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるように配慮する。
- ⑤基礎的な知識や技能を確実に習得し、それらの知識や技能を実生活の中で活用できる力を、繰り返し、段階的に育成できるような教科書構成にする。
- ⑥英語の文章を読んだり聞いたりすることにより、視野を広げ、ことば・文化・人間・社会・自然などについて考えたり、多くの人とかかわる経験をする中で、思考力・判断力・表現力を養えるような配慮をする。また、そうした活動・体験を通して、他を受け入れ、個人の価値を尊重することのできる豊かな心を育成し、自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培える内容にする。
- ⑦学んだ内容の深化・発展に弾力的に取り組めるように、活動、選択的教材、巻末の付録などを充実させる。

### (2)本書の特色と編修上の留意点

#### A. カリキュラムと分量

教材の精選をはかり、カリキュラムにゆとりをもたせた。

#### B. 題材内容

- 1) ことばの教育、国際理解教育、人間教育を題材内容の基本とし、これらの領域で生徒の知性や感性を考慮して、生徒の興味を喚起する内容にした。
- 2) 題材は、日常生活・学校生活、言語と民族、比較文化、平和や地球環境、国際協力、科学技術や芸術・音楽、社会貢献、歴史、人間としての生き方など、多様な内容にした。文章は、スピーチ、インタ

ビュー、レポート、レクチャー、対話文、説明文、物語など変化をもたせた。

- 3) 場面や登場人物は、英語が広く使われている現況と国際理解の課題との関係から、日本を中心に、英米を中心とした英語圏諸国、アジア、アフリカの国および人物を配置した。

### C. 言語材料の扱い

- 1) 言語材料は、活発で多様な言語活動を展開することができるように配慮した。
- 2) 「文法事項」は、表現活動に活用することを基本として、「コミュニケーション英語 I」では、より基本的な文法事項を扱った。
- 3) 「文構造」は、英語で言語活動を行うにあたって使用できるように、より運用度が高いものを扱った。
- 4) 高校入門期の 1、2、3 課の導入部は主に中学校における復習とし、生徒の負担にならないように移行に配慮した。
- 5) 「基本文」は脚注中段に示し、既習語による文として提示した。
- 6) 「単語」は、中学校既習語を 1,198 語とし、それ以外の語を新語として脚注上段で示した。また、「連語・熟語」「表現」については、傍注および脚注中段で示した。
- 7) 「音声」については、標準的な米音を基本とした。

### D. 言語活動

言語活動は、主に本課本文や Your Reaction など、言語の「使用場面」を示すと共に、4 技能の総合的・統合的な関連が図れるように工夫した。

また、「言語の働き」に留意し、特に会話で多用される慣用的な表現についても、中学校における学習を踏まえながら、基本的なものを精選して系統的に扱った。

### E. 本書の構成と内容

- 1) 各課の本課本文は、4 技能の習得を目指す総合的な教材とした。各課のセクション数は原則として 3～5 で構成されている。
- 2) 各課の基本文は脚注に (G) として示した。
- 3) 各ページの脚注には、上段に新出語、中段に熟語・連語、表現、および基本文、下段に本文の内容に関する Q&A を示した。

本文使用語のうち、中学校既習とみなした語は巻末「Word List」の中で太字体(ボールド体)で示した。

- 4) 各課の練習問題は、「Comprehension (Check, Summary, Food for Thought)」「Your Reaction」「Grammar」「Exercises」で構成し、4 技能の言語活動が、総合的・統合的に行われるように配慮した。

「Comprehension」は、本課の内容の確認(Check)と要約(Summary)、本課の中心的なテーマをつかむための読解問題(Food for Thought)。「Your Reaction」は、本課の題材内容に関連した発信型の創造的な言語活動に資するものとした。「Grammar」は、本課で扱う基本表現を提示し、それに関連する文型・文法項目を提示した。「Exercises」は、新出の文法項目や熟語・連語、表現などの練習問題を提示した。

- 5) 各課の最後には「Optional Reading」を選択的教材として配置し、本課に関連するテーマを別の角度・視点から考えることができるようにした。
- 6) 「Reading Skills」では、読み方の技術の基本を系統的に示した。
- 7) 「Sound Studio」では、音声指導のための、音の連結、区切り、強勢・リズム、イントネーションを扱った。
- 8) 巻末に、「文法のまとめ」を設け、文法事項の整理と確認に資した。
- 9) 巻末に、「Word List」「Phrase List」を設け、中学校既習とみなした語(1,198 語)とコミュニケーション

英語 I の新出語(420 語)を掲載し、初出ページを示した。

10) 巻末付録として、「Your Reaction Dialogs」を掲載し、学習上の配慮とした。

## 2. 対照表

	図書の構成・内容	学習指導要領の内容
言語活動	Lesson(本文, Q&A, True or False, Check, Summary, Optional Reading) ●本文を聞いて情報や考えを理解し概要や要点をとらえる。 Reading(本文, True or False, Check) ●本文を聞いて内容を理解し話の筋をとらえる。 Optional Lesson(本文, True or False, Check) ●本文を聞いて情報を理解し概要や要点をとらえる。	第2款 第2 2 (1)ア
	Lesson(本文, Q&A, True or False, Check, Summary) ●本文を読んで情報や考えを理解し概要や要点をとらえる。また、聞き手に伝わるように音読する。 Reading(本文, True or False, Check) ●本文を読んで話の筋をとらえる。また、登場人物の感情などが聞き手に伝わるように音読する。 Optional Lesson(本文, True or False, Check) ●本文を読んで情報や考えを理解し概要や要点をとらえる。また、聞き手に伝わるように音読する。	第2款 第2 2 (1)イ
	Lesson(本文, Food for Thought, Your Reaction), Optional Lesson(本文) ●本文から得た情報や理解した概要や要点について、話し合ったり意見の交換をしたりする。 Reading (本文) ●本文の内容や登場人物の心情について、話し合ったり意見の交換をしたりする。	第2款 第2 2 (1)ウ
	Lesson(本文, Summary, Food for Thought, Your Reaction), Optional Lesson(本文) ●本文から得た情報や理解した概要や要点について、簡潔に書く。 Reading (本文) ●本文の内容や登場人物の心情について、簡潔に書く。	第2款 第2 2 (1)エ
言語活動の配慮事項	Lesson(本文, Your Reaction), Reading(本文), Optional Lesson(本文) ●リズムやイントネーションに注意しながら話す。 Sound Studio ●リズムやイントネーションの基本を学び、その違いによって異なる情報を相手に伝えることができることを学ぶ。 Reading Skill ●フレーズ・リーディングを学び、意味の区切れなどを意識しながら読むことを学ぶ。	第2款 第2 2 (2)ア
	Lesson(本文, Your Reaction, Optional Reading), Reading(本文), Optional Lesson(本文) ●内容の要点を示す語句(談話標識など)を学び、それらに注意を払って読んだり書いたりする。 Reading Skill ●内容の要点を示す語句(談話標識など)を学ぶ。	第2款 第2 2 (2)イ
	Lesson(本文, Food for Thought, Optional Reading), Optional Lesson(本文) ●事実と意見などを区別して内容を理解する。またそれらについて話し合ったり他者に伝えたりする。	第2款 第2 2 (3)ウ

言語活動の取り扱い	Lesson, Reading, Optional Lesson, ほか ●言語活動の4つの領域(聞く、話す、読む、書く)を有機的に関連づけつつ総合的に指導できるように配慮した。 ※カリキュラム表参照	第2款 第2 3 (1)
	Lesson, Reading, Optional Lesson, ほか ●言語の使用場面や言語の働きについて、各単元で取り扱うよう適切に配置した。 ※カリキュラム表参照	第3款 1
	Lesson(本文, Food for Thought, Your Reaction) ●さまざまな学習形態の言語活動を配置し、多彩な授業展開ができるように配慮した。	第4款 2(4)
	Lesson, Reading, Optional Lesson, ほか ●生徒が自ら発信する課題を配置し、生徒がより多く英語に触れる機会がもてるよう、その結果、授業が実際のコミュニケーションの場面となるよう配慮した。また、指示文を英語で示した。	第3款 4
音声	新語(脚注・傍注), Sound Studio ●新出語には発音記号を付した。また Sound Studio では文中では語の発音に変化するケースや、主要な母音や子音の音についてまとめた。	第4款 2(2)
単語表現	Lesson, Reading, Optional Lesson ●新出語および連語、慣用表現などは脚注および傍注で示した。また Word List / Phrase List では上記で取り上げた語句をアルファベット順に示し、出現ページを付した。 ●本文は現代の標準的な英語を基本とした。	第3款 2 ア (ア)(イ)  第3款 3 ア
	Lesson(本文, Grammar, Exercises) ●文構造、文法事項は運用度の高いものを言語活動と効果的に関連づけることを配慮し、1課に偏らないよう満遍なく配置した。また、実際に活用できるような形式で提示し、定着を確認できる課題を配した。 ※カリキュラム表参照	第3款 2 イ・ウ 第3款 3 イ・ウ
題材	Lesson, Reading, Optional Lesson ●本文や言語活動においては、生徒の発達段階および興味、関心に即した題材を配置した。その際、次の3つを柱とした。①ことばの教育 ②国際理解教育 ③人間教育 ●具体的には以下のテーマを掲載した。日常生活・学校生活、言語と民族、比較文化、平和や地球環境、国際協力、科学技術や芸術・音楽、社会貢献、歴史、人間としての生き方など ●また形式として、以下のものを掲載した。スピーチ、インタビュー、レポート、レクチャー、対話文、説明文、物語など ※以上、カリキュラム表参照	第4款 2(1)
中高接続	Lesson, Reading, Optional Lesson ●Lesson 3 までは中学校既習の文法項目を扱い、高等学校の内容になだらかに移行できるよう配慮した。 ●新しく学習した内容は後続のレッスンでも取り上げ、繰り返し学習することで定着するよう配慮した。 ●生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動ができるように配慮した。	第2款 第2 3 (2)
自立学習	目次, Lesson, Reading, Optional Lesson, Reading Skill, Sound Studio ●到達目標が一目でわかるよう目次を工夫した。 ●全課を通して調べ学習、自己表現活動などを配し、自立的な学習を促した。Reading Skill や Sound Studio では英語を読むためのスキルや音声に関する整理を掲載し、自学自習を促した。 ●傍注や脚注に新語、連語、慣用表現などを示し、自学自習の一助とした。	第4款 2(3)

(別記) カリキュラム表

L = Lesson, OR = Optional Reading, R = Reading, OL = Optional Lesson

課	タイトル	主な言語材料	題材/場面	はたらき	L	S	R	W	配当時数
L1	When Words Won't Work	基本的な文のパターン	言語・(日本)文化/学校生活・携帯電話	説明する、描写する、推論する、仮定する、反対する	○	○	○	○	5
		動名詞							
		助動詞のまとめ							
	OR PictOLYMPIgrams				○		○		(1)
L2	Going into Space	現在完了	自然科学・生き方/学校生活	説明する、描写する、驚く、推論する	○	○	○	○	5
		不定詞							
		S+V+O(O=疑問詞節/if節)							
	OR Go Beyond Your Comfort Zone				○		○		(1)
Reading Skill 1		基本的な文のパターン					○		0.5
Sound Studio 1		音の連結・脱落・同化			○	○			0.5
L3	A Canoe Is an Island	関係代名詞	伝統文化・共生/スピーチ・学校生活	説明する、描写する、例を示す、反論する、	○	○	○	○	6
		分詞の形容詞的用法							
		S+is+C(C=that節)							
	OR Small Boat, Big Ocean				○		○		(1)
L4	Seeing with the Eyes of the Heart	関係代名詞 what	音楽・生き方・社会貢献/学校生活	説明する、描写する、驚く、要約する	○	○	○	○	6
		過去完了							
		S+V+O+C(C=原形不定詞)							
	OR My Father				○		○		(1)
Reading Skill 2		フレーズ・リーディング					○	○	0.5
Sound Studio 2		文の区切り			○	○			0.5
L5	Food Bank	関係副詞	社会貢献・生き方/スピーチ・学校生活	説明する、描写する、感嘆する、反対する、主張する、推論する	○	○	○	○	6
		S+V+O+C(C=分詞)							
		S+V+C(C=分詞)							
	OR 2HJ Volunteers Speak				○		○		(1)
R1	Homework		物語/本	主張する、命令する、反論する、心配する	○	○	○	○	4
L6	Roots & Shoots	分詞構文	環境・共生/インタビュー・学校生活	説明する、助言する、描写する、言い換える、相づちを打つ、感謝する、主張する、仮定する	○	○	○	○	6
		it ~ that...(形式主語)							
		同格							
	OR Message for High School Students				○		○		(1)
Reading Skill 3		談話標識					○		0.5
Sound Studio 3		強勢とリズム			○	○			0.5
L7	Paper Architect	seem to ~ ; it seems that ~	建築・ボランティア/学校生活	説明する、描写する、主張する、聞き返す、仮定する	○	○	○	○	6
		受動態の完了形							
		形式目的語 it							
	OR You Build Your House with What?				○		○		(1)
L8	Not So Long Ago	仮定法過去	平和・歴史/スピーチ・学校生活	説明する、描写する、主張する	○	○	○	○	6
		S+V+O <sub>1</sub> +O <sub>2</sub> (O <sub>2</sub> =疑問詞節)							
		付帯状況の with							
	OR Images from the Trunk				○		○		(1)
Reading Skill 4		パラグラフの構成					○		0.5
Sound Studio 4		イントネーション			○	○			0.5
L9	Crossing the "Uncanny Valley"	部分否定	科学技術・人間理解/学校生活	説明する、描写する、推論する	○	○	○	○	6
		used to ~・would ~など							
		助動詞+be+過去分詞							
	OR Are Robots Going to Take Our Jobs?				○		○		(1)
L10	Good Ol' Charlie Brown	仮定法過去完了	生き方・芸術/学校生活・ホームページ	説明する、描写する、望む、驚く	○	○	○	○	7
		no matter+疑問詞							
		be to 不定詞							
	OR The PEANUTS Characters				○		○		(1)
R2	Love Potion		物語/本	説明する、助言する、反論する	○	○	○	○	4
OL	Heroic Losers		スポーツ・歴史	説明する、描写する、主張する、望む	○	○	○	○	(4)
文法のまとめ/Your Reaction Dialogs/Word List/Phrase List					配当時数合計				71 (14)